

【注意事項】

CS+用 RL78 コード生成 (CS+ for CC),
CS+用 RL78 コード生成 (CS+ for CA,CX),
CS+用 78K コード生成 (CS+ for CA,CX),
CS+用 V850 コード生成(CS+ for CA,CX),
e² studio Code Generator プラグイン

概要

タイトルに記載している製品の使用上の注意事項を連絡します。

1. 旧バージョンのコード生成を使用して作成したプロジェクトを、CS+ for CC V6.00.00 および e² studio V6.0.0 でご使用になる場合の注意事項 (RL78 ファミリ)
※新規にプロジェクトを作成した時には、該当しません。
2. 旧バージョンのコード生成を使用して作成したプロジェクトを、CS+ for CA,CX V4.00.01 でご使用になる場合の注意事項 (RL78 ファミリ、78K ファミリ、V850 ファミリ)
※新規にプロジェクトを作成した時には、該当しません。
3. コード生成ツールでソースファイルの生成先フォルダを変更した時の注意事項

1. 旧バージョンのコード生成を使用して作成したプロジェクトを、CS+ for CC V6.00.00 および e² studio V6.0.0 でご使用になる場合の注意事項 (RL78 ファミリ)**1.1 該当製品**

- CS+用 RL78 コード生成 V2.14 (CS+ for CC V6.00.00)
- e² studio V6.0.0(Code Generator プラグイン V2.8.0)

1.2 該当 MCU

- RL78 ファミリ : RL78/G1A, RL78/G12, RL78/G13, RL78/G14 および RL78/I1A グループ
RL78/F12, RL78/F13, RL78/F14, RL78/F15 および RL78/L12 グループ

1.3 内容

以下の旧バージョン製品と該当製品は、コード生成後にソースファイルが生成されるフォルダが異なります^(注)。従って、旧バージョン製品で作成した“コード生成によるソースファイルを含むプロジェクト”を、該当製品で開き、再度、コード生成を行った場合、フォルダ構成が変更されます。

その際、コード生成により生成されたソースファイルに対しファイル個別オプションを指定していた場合は、指定したファイル個別オプションが削除されます。そのため、コンパイルエラーの発生や意図したオブジェクトが生成できない場合があります。

また、ソース管理ツールなど、ソースフォルダのパスを指定するツールの設定を見直す必要があります。

注：旧バージョン製品と該当製品のフォルダ構成の違いは以下のとおりです。

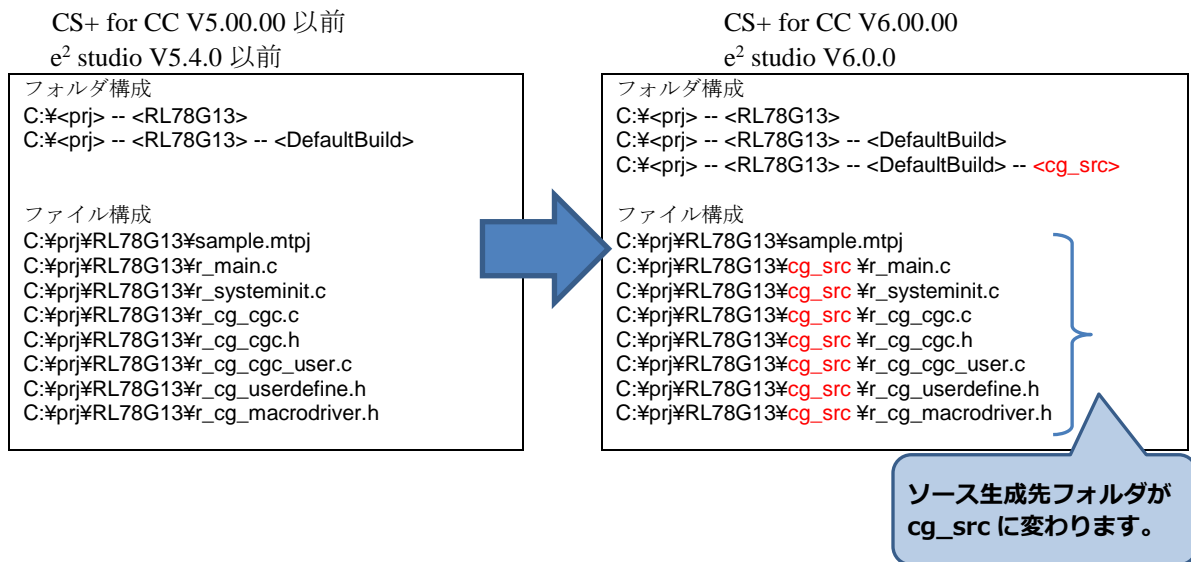
- 旧バージョン製品
プロジェクトファイル(.mtpj) と同じフォルダにソースファイルを生成します。

- 該当製品
プロジェクトファイルがあるフォルダに `cg_src` という名前のフォルダを作成し、そのフォルダにソースファイルを生成します。

■ 旧バージョン製品

- CS+用 RL78 コード生成 V2.13 以前の全リビジョン (CS+ for CC V5.00.00)
- e² studio V5.4.0 (Code Generator プラグイン V2.6.0) 以前の全リビジョン

以下に CS+ の場合のフォルダ構成変更例を示します。



1.4 回避策

コード生成機能を使用する場合は、下記に注意してください。対象製品によって回避策が異なります。

- CS+用 RL78 コード生成 V2.14 (CS+ for CC V6.00.00)

コード生成を行う前に、コード生成により生成されたソースファイルの個別コンパイルオプションを記録して、コード生成後に再設定してください。

- e² studio V6.0.0(Code Generator プラグイン V2.8.0)

下記の手順で、`cg_src` フォルダを作成し、ファイルを移動した後、コード生成プラグインを使用してください。

- (1) “<プロジェクトフォルダ>”にある `src` フォルダ上で右クリック → [新規] → [フォルダー] を選択します。
- (2) フォルダ名に “`cg_src`” を指定し、新規フォルダを作成します。
- (3) コード生成で出力するソースファイル^(注)を “<プロジェクトフォルダ>¥src¥cg_src” に移動します。

なお、ファイルの移動は、プロジェクト・エクスプローラ上のドラッグ&ドロップで可能です。

注：コード生成で出力するソースファイルは以下のとおりです。

`r_main.c, r_systeminit.c, r_cg_XXX.c, r_cg_XXX.h`

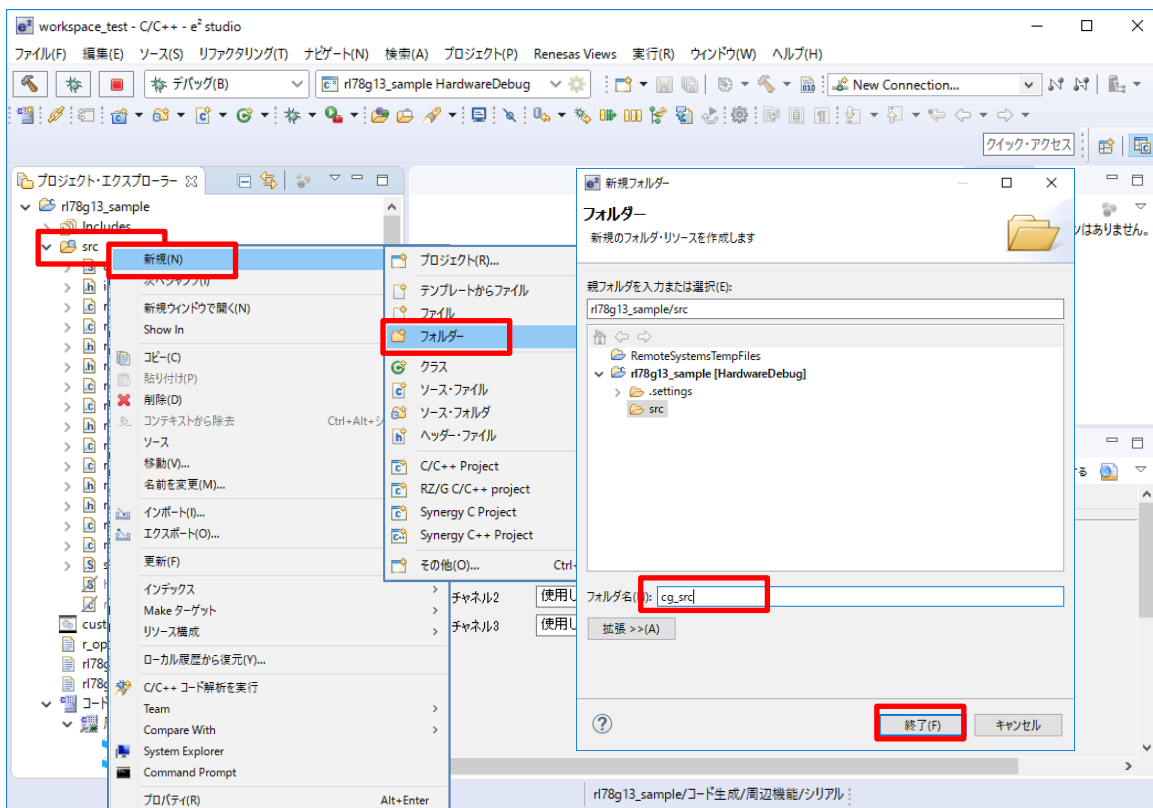


図 1-1 cg_src フォルダの作成

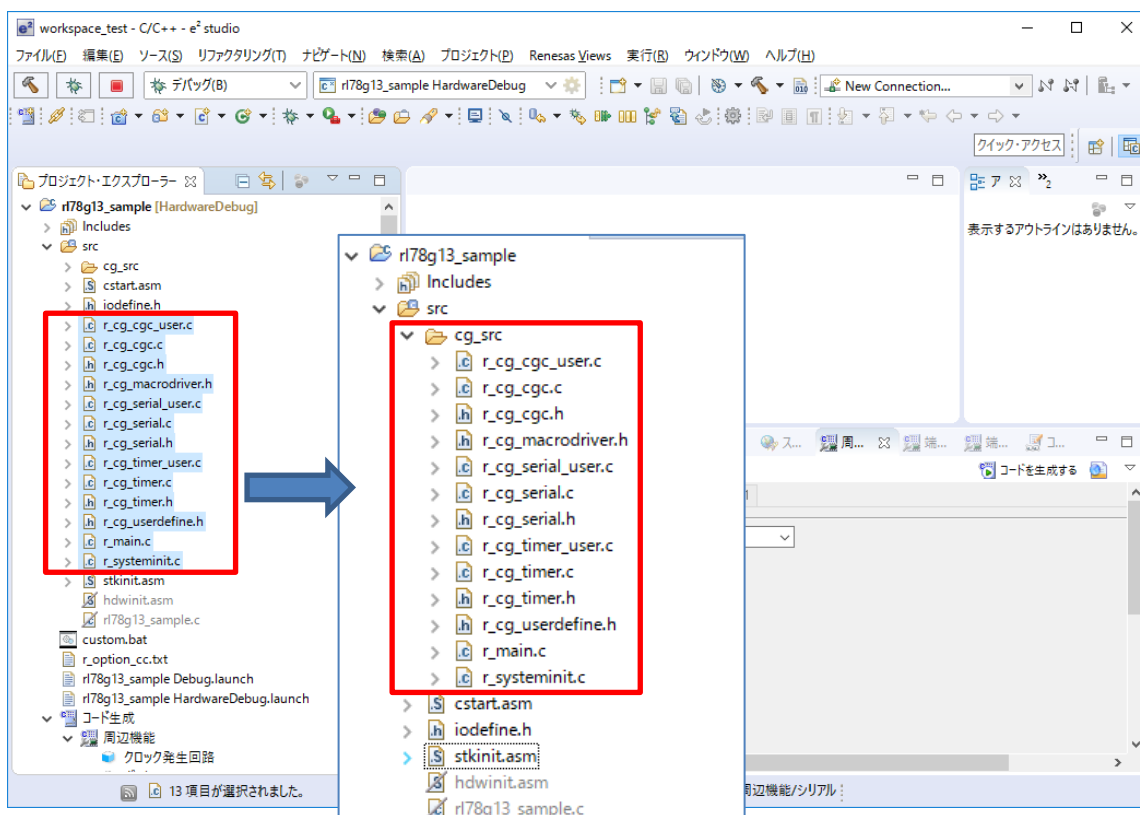


図 1-2 コード生成で出力するソースファイルを“<プロジェクトフォルダ>cg_src”に移動

1.5 恒久対策

次期バージョンで改修予定です。

2. 旧バージョンのコード生成を使用して作成したプロジェクトを、CS+ for CA,CX V4.00.01 でご使用になる場合の注意事項 (RL78 ファミリ、78K ファミリ、V850 ファミリ)

2.1 該当製品

- CS+用 RL78 コード生成 V2.14 (CS+ for CA,CX V4.00.01)
- CS+用 78K コード生成 V2.06 (CS+ for CA,CX V4.00.01)
- CS+用 V850 コード生成 V2.02 (CS+ for CA,CX V4.00.01)

2.2 該当 MCU

- RL78 ファミリ : RL78/G1A, RL78/G12, RL78/G13, RL78/G14 および RL78/I1A グループ
RL78/F12, RL78/F13, RL78/F14, RL78/F15 および RL78/L12 グループ
- 78K ファミリ : 78K0/Ix2, 78K0/Kx2-L, 78K0R/Fx3, 78K0R/Ix3, 78K0R/Lx3, 78K0R/Kx3,
78K0R/Kx3-A および 78K0R/Kx3-L グループ
- V850 ファミリ : V850ES/Jx3, V850ES/Jx3-E, V850ES/Jx3-H, V850ES/Jx3-L および
V850E/Sx3-H グループ

2.3 内容

以下の旧バージョン製品と該当製品は、コード生成後にソースファイルが生成されるフォルダが異なります^(注)。従って、旧バージョン製品で作成した“コード生成によるソースファイルを含むプロジェクト”を、該当製品で開き、再度、コード生成を行った場合、フォルダ構成が変更されます。

その際、コード生成により生成されたソースファイルに対しファイル個別オプションを指定していた場合は、指定したファイル個別オプションが削除されます。そのため、コンパイルエラーの発生や意図したオブジェクトが生成できない場合があります。

また、ソース管理ツールなど、ソースフォルダのパスを指定するツールの設定を見直す必要があります。

注：旧バージョン製品と該当製品のフォルダ構成の違いは以下のとおりです。

- 旧バージョン製品
プロジェクトファイル(.mtpj) と同じフォルダにソースファイルを生成します。
- 該当製品
プロジェクトファイルがあるフォルダに `cg_src` という名前のフォルダを作成し、そのフォルダにソースファイルを生成します。

■ 旧バージョン製品

- CS+用 RL78 コード生成 V2.13 以前の全リビジョン (CS+ for CA,CX V4.00.00)
- CS+用 78K コード生成 V2.05 以前の全リビジョン (CS+ for CA,CX V4.00.00)
- CS+用 V850 コード生成 V2.01 以前の全リビジョン (CS+ for CA,CX V4.00.00)

2.4 回避策

下記のコード生成プラグインをアンインストールし、前バージョンのコード生成プラグインをインストールしてください。

なお、アンインストール方法は、下記のユーザーズマニュアルの“2.2 CS+ をアンインストールする”をご参照ください。

- ▶ アンインストールするコード生成プラグイン
 - CS+ for CA,CX Code Generator Common
 - CS+ for CA,CX Code Generator for RL78
 - CS+ Code Generator for 78K
 - CS+ Code Generator for V850
- ▶ CS+ V6.00.00 統合開発環境 ユーザーズマニュアル インストーラ編
<https://www.renesas.com/search/keyword-search.html#genre=document&q=r20ut3990>
- ▶ インストールする前バージョンのコード生成プラグイン
以下の URL から、インストーラをダウンロードしてインストールしてください。
 - CS+ コード生成共通部 (CS+ for CA,CX) V1.08.00
<https://www.renesas.com/software/D4000322.html>
 - CS+ RL78(CS+ for CA,CX)コード生成 V2.13.00
<https://www.renesas.com/software/D4000326.html>
 - CS+ 78K コード生成 V2.05.00
<https://www.renesas.com/software/D3014932.html>
 - CS+ V850 コード生成 V2.01.00
<https://www.renesas.com/software/D3014933.html>

2.5 恒久対策

次期バージョンで改修予定です。

3. コード生成ツールでソースファイルの生成先フォルダを変更した時の注意事項

3.1 該当製品

- CS+用 RL78 コード生成 V2.14 (CS+ for CC V6.00.00)
- CS+用 RL78 コード生成 V2.14 (CS+ for CA,CX V4.00.01)
- CS+用 78K コード生成 V2.06 (CS+ for CA,CX V4.00.01)
- CS+用 V850 コード生成 V2.02 (CS+ for CA,CX V4.00.01)

3.2 該当 MCU

- RL78 ファミリ : RL78/G1A, RL78/G12, RL78/G13, RL78/G14 および RL78/I1A グループ
RL78/F12, RL78/F13, RL78/F14, RL78/F15 および RL78/L12 グループ
- 78K ファミリ : 78K0/Ix2, 78K0/Kx2-L, 78K0R/Fx3, 78K0R/Ix3, 78K0R/Lx3, 78K0R/Kx3,
78K0R/Kx3-A および 78K0R/Kx3-L グループ
- V850 ファミリ : V850ES/Jx3, V850ES/Jx3-E, V850ES/Jx3-H, V850ES/Jx3-L および
V850E/Sx3-H グループ

3.3 内容

プロジェクト・ツリー パネルの [Project name (プロジェクト)] → [コード生成 (設計ツール)] のプロパティパネルで、ソースファイルの生成先フォルダを変更しても、指定したフォルダにソースファイルが生成されません。

例 : c:\test\test2 にあるプロジェクトで生成先フォルダを c:\test\test2\test3 へ変更した場合

指定した生成先フォルダ “c:\test\test2\test3\cg_src” ではなく、“c:\test\test3\cg_src” にソースファイルが生成されます。

3.4 回避策

回避策はありません。コード生成のプロパティで示す生成先フォルダを変更せずにご使用ください。

3.5 恒久対策

次期バージョンで改修予定です。

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2017.08.22	-	新規発行

ルネサスエレクトロニクス株式会社
〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

■総合お問い合わせ先

<https://www.renesas.com/contact/>

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。